

年頭所感

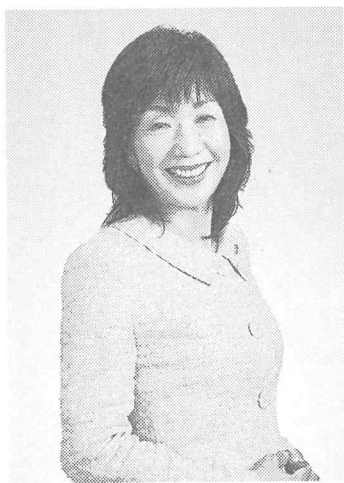
OCHIS 作本貞子副理事長

今年も新たな変異株が出現し、ウィズコロナ時代の長期化も予想されま

す。しかし、3回目のワクチン接種や治療などで、長いトンネルから光が差し込んできているようにも思えます。

昨年を振り返れば、OCHISセミナーをはじめ、全日本トラック協会の健康管理セミナーや睡眠時無呼吸症候群(SAS)セミナー等もほぼWeb開催となり、Web

のメリット・デメリットの両面を目的の当たりにしながらも、もう決して後戻りできない社会構造上の変化を痛感しています。そのような中で、今注目されているのがデジタル化ですが、コロナ対策で立ち遅れが発覚したかと思われる医療体制もさることながら、身近なところでは個人や企業の健康情報が、有効に活用されていく現実に向



ています。

日本の企業には、労働

健診情報のビッグデータ活用を目指して

安全衛生法に基づく定期健康診断の実施やその結

果に基づく安全配慮が義務とされていますが、運

輸業における中小企業の多くは健診結果がまだまだ紙ベースであり、健診機関ごとに項目や数値基準が異なるなどの現実(弊害)により、法令順

守もおぼつかない状況です。これでは日本の物流を支えるドライバーの健康を守り切ることができません。

OCHISでは、2004年に運輸業界向けのSASのスクリーニング検査を日本初で立ち上げ、加えて2017年から定期健康診断結果のシステム化とそのフォローアップ事業を展開しています。ビッグデータとまではいきませんが、すでにそれなりのデータを保有しています。自省の念

を込めてあえて言えば、これらの貴重なデータをもっと活用すべきと考え

ています。さらに目標とすべきは、働き方改革における基礎データともいえる労働時間や、睡眠時間などの生活習慣データとの融合です。これらを健康データにおける重要項目の一環として、すでに保有しているデータに付加して活用していくことで、

事故や病気の予兆が「見える化」できると確信しています。そのためにはテクニカルなスキル等も不可欠ですが、関係者の方々のお知恵を頂戴しながら、今まで成しえなかった夢のような話が現実となり、運輸業界で働くドライバーの健康(人生)や、企業の発展に寄与できることを心より願うものです。本年もよろしく

お願いいたします。